

日本語(国語) 【小2】 指導カリキュラム

日本語テキスト



ユニット・指導内容・指導単元一覧表

- 1 ユニットの指導モジュール配分は、日本語力のステップに応じて比率を決める。
現在の日本語力レベルと現在の学年の学習内容、1 ユニット・モジュール配分比率は、概ね下記のようにする。

	ステップに応じた指導内容	:	現在の学年学習内容
【S1】	8	:	2
【S2】	7	:	3
【S3】	5	:	5
【S4】	2	:	8

『指導ユニット・モジュール数配分例』

31	:	8 (モジュール数39モジュールの場合)
19	:	8 (モジュール数27モジュールの場合)
9	:	9 (モジュール数18モジュールの場合)
2	:	7 (モジュール数 9モジュールの場合)

日本語(国語)【小2】4月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小2 4月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
じゅんばんにならぼう(話・聞①)	◎興味をもって、大事なことを落とさないように聞けることができる。
ふきのとう (読⑧、書②) 音読 「～と、～。」の文型	●声【こえ】の大きさや速【はや】さを工夫【くふう】して音読【どく】する。 「～と、～。」の文型【ぶんけい】を使【つか】って文を作る。
【語彙・表現】 竹やぶの 竹の はっぱ 「さむかったね。」 「うん、さむかったね。」と ささやいて います。 竹やぶの そばの ふきのとう 「よいしょ、よいしょ。おもたいな。」 雪を どけようと、ふんばって いる 「よいしょ、よいしょ。そとが 見たいな。」 雪 「ごめんね。」 「わたしも、早く とけて 水に なり、とおくへ いって あそびたいけど。」 「竹やぶの かげに なって、お日さまが あたらない。」 竹やぶ 「すまない。」 「わたしたちも、ゆれて おどりたい。ゆれて おどれば、雪に 日が あたる。」 「でも、はるかぜが まだ こない。はるかぜが こないと、おどれない。」 お日さま 「おや、はるかぜが ねぼうして いるな。竹やぶも 雪も ふきのとうも、みんな こまって いるな。」 「おうい、はるかぜ。おきなさい。」 はるかぜ 「や、お日さま。や、みんな。おまちどお。」 はるかぜに ふかれて、 竹やぶが、ゆれる ゆれる、おどる。 雪が、とける とける、水に なる。 ふきのとうが、ふんばる、せが のびる。 一もっこり。 ふきのとう 「こんにちは。」 すっかり はるです。	

▼やくに わかれて 音読します。じんぶつの ようすや、して いることに 気を つけて、読みかたを かんがえましょう。
 ・どんな じんぶつが 出て きますか。 ・どんな ことを して いますか。 ・どんな ことを はなして いますか。
 ▼あなたは、つぎの ことばを、どのように 読みますか。こえに 出して、読んで みましょう。
 「よいしょ、よいしょ。おもたいな。」
 音読を する ときは、つぎの ことに 気を つけます。
 ・しせい ・口の あけかた ・こえの 大きさ ・読む はやさ

書いて みよう

「ーと、」を つかった 文を 書きましょう。 はるかぜが ふくと、竹やぶがゆれる。

【新出漢字】

読 どく 音読
 よむ 読みかた
 書 かく 字を書く
 しょ 図書館

雪 ゆき 雪がふる
 言 いう いけんを言う
 南 みなみ 南をむく
 絵 え 絵を見る

春がいっぱい (書②)

● 春を表す[あらわす]言葉[ことば]を探す[さがす]。 ☆ 生活科
 [S1/S2/S3/S4] 詩を音読する。

【語彙・表現】

かたばみ さくら よもぎ うぐいす れんげ たんぽぽ のの花 ひばり みつばち てんとう虫
 もんしろちょう すみれ

はなが さいた まど・みちお

はなが さいた
 はなが さいた
 はひふへ ほほほ
 はなが さいて
 みない ひと いない

はなが さいた
 はなが さいた
 ほへふひ ははは
 はなが さいて
 おこる ひと いない

【新出漢字】

春 はる 春になる

今週のニュース (書④)
 身近な出来事の様子や気持ち

● 身近[みちか]な出来事[できごと]の様子[ようす]や気持ち[きもち]を書く。
 ■ 1週間の出来事などを知らせるニュースを書く。

【新出漢字】

今 こん 今週 いま 今から行く
 週 しゅう 今週

紙 かみ 紙に書く
 門 もん 正門

日本語(国語)【小2】5月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小2 5月 ユニット・指導内容・ステップ

【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 **【S1】 31：8** **【S2】 19：8** **【S3】 9：9** **【S4】 2：7**

ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
たんぽぽのちえ (読⑩) 時間の順序や理由を表す言葉 文型を使った短文作り	時間の順序[じゅんじょ]や理由[りゆう]を表す[あらわす]言葉[ことば]。 文型[ぶんけい]を使[つか]って★ 短文[たんぶん]を作る。 ■順序に気をつけて説明的文章を読む。 教材文を読む。 どんなときに、どんな知恵を働かせているか捉える。 ・時を表す言葉に着目する。 ・たんぽぽが変わっていく順序に気をつける。 ・たんぽぽの知恵とそのわけを整理する。 ・文末表現の違いに注意する。
【語彙・表現】 春に なんと、 黄色い きれいな 花が さきます。 二、三日 たつと、 花は しぼんで、 くろっぽい色 そうして、 花の じくは、 ぐったりと じめんに たおれて しまいます。 やがて、 花は すっかり かれて、 白い わた毛 らっかさんのよう わた毛に ついて いる たねを、ふわふわと とばす ▼たんぽぽは、どんな ときに、どんな ちえを はたらかせて いますか。ときを あらわす ことばや、かわって いく じゅんじょに気を つけて 読みましょう。 ▼たんぽぽの ちえには、どんなわけが ありますか。 文の おわりの ことばに 気をつけて、たしかめましょう。 ・ーのです。 ・ーからです。	この ころに なんと、 花の じくが、また おき上がります。 ぐんぐん のびていきます。 なぜ、こんな ことを するのでしょう。 せいを 高く する ほうが、わた毛に 風が よくあたって、たね を とおくまで とばす ことが できるから よく 晴れて、風の ある 日 しめり気の 多い 日や、雨ふりの日 わた毛の らっかさんは、すぼんで しまいます。 わた毛がしめって、おもく なんと、たねを とおくまで とばす ことが できないから このように、 いろいろなちえを はたらかせて います。

▼たんぽぽの ちえで、かしこいとおもう ところは どこですか。

■ おもったことを 書く ときに、つかって みましょう。

- ・はじめて 知りました。
- ・おもしろいと おもいました。

- ・ふしぎだと おもいました。
- ・もっと 知りたく なりました。

【新出漢字】

黄 き 黄色い花
色 いろ 黄色い花
太 ふとる 犬が太る
毛 け(げ) わた毛
高 たかい せいが高い

風 かぜ 風がふく
晴 はれる 晴れた日
多 おおい 人が多い
知 しる はじめて知る

かん字のひろば①(書②)

◎1年生に配当されている漢字を文の中で正しく使うことができる。
絵を言葉で説明する。

赤い 夕日 田んぼ 山 村 学校 車 貝 川 青い 林 町 森 王さま

かんさつ名人になろう(書④)
「、」の つかいかた

★句点[くてん]に気をつけて文を書く。
◎丁寧に観察し、気づいたことや分かったことを集めることができる。
P37の作例を読み、観察記録文を書くときに大切なことを整理する。

1 かんさつする ものを きめて、ていねいに かんさつしよう。

ようすや うごき

- ・大きさや 形、色を 見る。
- ・長さを はかる。

- ・いろいろな ほうから 見る。
- ・さわる

- ・数を 数える。
- ・においを かぐ。

2 かんさつした ことを きろくする

日づけ、曜日、天気を書く。

どう やって かんさつしたのかを 書く。

「あたまを」「体が」など、なんの ことかが わかるように 書く。

なにを して いるのかや、どのように うごくのかが わかるように書く。

「気がつきました。」 気が ついた ことや、見つけた ことを 書くときに、つかう ことば。

3 書いた 文しようにを 読みあおう。

【新出漢字】

形 かたち まるい形
長 ながい 長さをはかる
ちょう 店長
数 かず 数を数える
かぞえる 数を数える
曜 よう 火曜日

体 からだ 体がのびる
たい 合体
細 ほそい 細い糸
近 ちかい いえが近い
同 おなじ 同じにおい

日本語(国語)【小2】6月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小2 6月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
いなばの白うさぎ (伝国②) 昔話 アニマシオン	昔話[むかしばなし]を聞いて、だれが出てきたか、だれが何をしたかをつかむ。 ◎人物の行動を中心に場面の様子を想像しながら、神話の読み聞かせを聞く。
かたかなのひろば (書②) かたかなで書くことば 音や声をあらわすことば	●片仮名の語を読んだり書いたりすることができる。 ★長音、促音[そくおん]、拗音[ようおん]、濁音[だくおん]、半濁音[はんだくおん]を★片仮名[かたかな]で表記[ひょうき]する。
シャワー タオル プール ドッジボール サッカー コート ダンス リレー ジャンプ スキップ マット バトン ゴール	
ともこさんはどこかな (話・聞④) 話す 声の大きさや速さ メモ アクセントによる意味の違い	●声の大きさや速さ[はやさ]に注意[ちゅうい]して、はっきりと話す。 ◎大事なことを聞き落さないようにしながら、聞く。 メモを取る練習 ○アクセントによる語の意味の違いなどに気づく。
「雨(あめ)」ということば 「あ」を高く言いましたか。「め」を高く言いましたか。どちらも同じ高さでしたか。 たべる 「あめ」は、どうでしょう。「雨」と 同じですか。	
【新出漢字】 話 はなす 先生と話す 聞 きく 話を聞く	
同じぶぶんをもつかん字 (伝②) にているかん字	★ 同じ部分[ぶぶん]をもつ漢字[かんじ]。
水 本 休 村 林 森 ▼同じ ぶぶんに 気を つけて、かん字を、読んだり 書いたり しましょう。 ・学校で、かん字を ならう。 ・今、おとうさんは、会社に いる。 ・この 小刀は、よく 切れる。 ・町内の おかしやで、百円の チョコレート をかう。	
【新出漢字】 会 かい 会社 あう 出会う 社 しゃ 会社 刀 かたな 小刀で切る	
店 みせ 広い店 てん 店長 肉 にく お肉 行 いく プールへ行く ぎょう 行をかえる	

切 きれる 糸が切れる 内 ない 町内 広 ひろい 広い店	せつ 大切 線 せん 線をひく 汽 き 汽車 海 うみ 海が見える
スイミー (読⑨、書①) アニメーション たとえの表現	●人物の行動や場面の様子などについて、想像を広げながら読む。 「初め」「中」「終わり」に分け、作品の構成を捉える。 ・スイミーの行動や会話に着目して場面の様子を想像する。 「～のような」「～みたいな」などのたとえの表現[ひょうげん]
【語彙・表現】 広い 海の どこか 小さな 魚の きょうだい みんな 赤い 一匹きだけは、からす貝よりもまっくろ。およぐのは、だれよりも はやかった。 名前は スイミー。 ある 日、 おそろしい まぐろ すごい はやさで ミサイルみたいに つっこんで きた。 小さな 赤い 魚たちを、一匹き のこらず のみこんだ。 にげたのは スイミーだけ。 くらい 海の そこ こわかった。さびしかった。 とても かなしかった。 けれど、 海には、すばらしい ものが いっぱい あった。 スイミーは、だんだん 元気をとりもどした。 にじ色のゼリーのよう な くらげ。 水中ブルドーザーみたいないせえび。 ドロップみたいな 岩から生えて いる、こんぶや わかめの 林。 うなぎ。 かおを 見る ころには、しっぽを わすれて いるほど 長い。 そして、風に ゆれる もも色の やしの 木みたいな いそぎんちゃく。 その とき、 スイミーは 見つけた、小さな 魚の きょうだいたち スイミーは 言った。 出て こいよ。 小さな 赤い 魚たち だめだよ。 スイミーは かんがえた。 いろいろ かんがえた。 うんと かんがえた。 それから、とつぜん、 スイミーは さげんだ。 「そうだ。みんな いっしょに およぐんだ。海で いちばん 大きな 魚の ふりを して。」 一匹きの 大きな魚みたい 「ぼくが、目に ならう。」 あさの つめたい 水の中を、ひるの かがやく 光の中を、みんなは およぎ、大きな 魚を おい出した。 ▼はじめに、「スイミー」が しょうかいされて います。「スイミー」は、どんな じんぶつでしょう。 ▼「ある 日」から、できごとが はじまります。「スイミー」が したことや 言った ことに 気をつけて、読みましょう。 ▼「スイミー」を 読んで、どんなかんそうを もちましたか。 ・たのしかった。 ・わくわくした。 ・どきどきした。 ・ほっとした。 ・うれしい 気持ちに なった。 ・ここに のこった。	
【新出漢字】 魚 さかな 小さな魚 前 まえ 名前 元 げん 元気 岩 いわ 岩かげ 教 おしえる みちを教える 光 ひかり たいようの 光	
かん字のひろば② (書②) 「は」「を」「へ」	●助詞[じょし]の「は」や「を」を適切[てきせつ]に用い、絵の中の漢字を使って文に書く。
絵の 中の 学校の ようすを 書きましょう。 「は」や 「を」を 正しく つかいましょう。 〈れい〉 女の子は、かだんに、赤い 花と 白い 花が さいて いるのを 見つけました。 先生 手 目 立つ 口 音 花 白い 赤い 見つける 石 大きい 中ぐらい 小さい 一年生 正門	

日本語(国語)【小2】7月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小2 7月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31 : 8 【S2】 19 : 8 【S3】 9 : 9 【S4】 2 : 7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
こんなもの、見つけたよ 丸、点、かぎ (書⑧) 「はじめ・中・おわり」の文 誤字・脱字	●「はじめ・中・おわり」を意識して、自分の思いを書く [かく]。 誤字[ごじ]・脱字[だつじ] ★ 句読点[くとうてん]・助詞[じょし]・★ かぎ(「 」)の使い方[つかいかた]。
1 ともだちに 知らせたい ものや できごとを、見つけよう。〈見た もの〉〈聞こえた 音〉〈したこと〉〈におい〉 2 くみ立てを 考えて、書こう。メモを もとに、「はじめ」「中」「おわり」のくみ立てで 書きましょう。 はじめ なにを 知らせたいかを 書く。 中 知らせたい ものや、できごとについて 書く。 おわり まどめの ことばを 書く。 丸、点、かぎ ●丸(。) 文の おわりに つけます。 ●点(、) 文の 中の 切れ目に うちます。 ●かぎ(「 」) 人の 話した ことば(会話)に つけます。会話は、行をかえて書きます。 丸(。)、点(、)、かぎ(「 」)は、それぞれ 一ますに 書きます。丸とかぎ(。)」も、一ますに 書きます。 点(、)をうたないと、文の いみが 正しく つたわらない ことがあります。 ・この店ではきものを買う。 ・この店では、きものを買う。 ・この店で、はきものを買う。 【新出漢字】 考 かんがえ よく考える 丸 まる 丸と点 思 おもう うれしく思う 点 てん 丸と点 場 じょう 会場 買 かう 本を買う	
うれしい ことば (書②) うれしい気持ちにさせる言葉	●人をうれしい気持ち[きもち]にさせる言葉[ことば]の働き。 【S1】 P70の絵を見て、どんな言葉を言ってもらおうと嬉しいかを考える。
〈がんばったとき〉 〈ひとりで いたとき〉 〈こまったとき〉 〈はじめて できたとき〉 【新出漢字】 合 あう 出し合う がっ 合体 回 かい 八十回 歩 あるく みちを歩く まわる 見回る	
お話クイズをしよう (読⑥) ミリーのすてきなぼうし 場面の様子	○場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。 【S1】「ミリーのすてきなぼうし」を読む。 【S2】登場人物が何をしたか、どんな出来事があったかを整理する。
【語彙・表現】	

ミリー　さんぽのとちゅう　ぼうしやさんの前　色とりどりのはねのついた　ぼうし　店長さん　おねだんは、九万九千九百九十九円　おさいふ　ちょっと足りないみたい　中は空っぽ　店長さん　てんじょうを見上げてしまいました　「これは、とくべつなぼうしです。」　「大きさも形も色も、じゅうじがい。おきゃくさまのそうぞうしだいで　どんなぼうしにもなる、すばらしいぼうしです。」　ぴったりです。とってもいいかんじです。　ミリーは、おさいふのなかみをぜんぶ手にとり、店長さんにわたしました。　ミリーは、新しいぼうしが　気に入りました。　「でも、なにかそうぞうしなくちゃ。」　じゃないと、ぼうしの形が見えないもの。　そう、クジャクのぼうし。　ケーキやさんの前　ミリーは、そうぞうしました。　すると、ぼうしは、ケーキのぼうしになりました。　花やさん　ミリーのぼうしは、花でいっぱいのはうしになりました。　公園　ふんすいのぼうし　そのときです。　ミリーは、気がつきました。　ぼうしをかぶっているのは、じぶんだけじゃないんだと。　むこうから、おばあさんかやってきました。　くらくてさびしい水たまり　ミリーがおばあさんにほほえみかけると、　鳥や魚がとび出して、　ミリーはうれしくなって、うたをうたいました。　すると、ぼうしもいっしょにうたいました。　いえにもどりました。　「ママ、わたしの新しいぼうし、見て。きれいでしょ。」　ママは、ちょっとびっくり　だって、ぼうしなんかどこにも。」　「まあ、すてきね。ママも、そんなぼうし、ほしいな。」　でも、　そうです。だれだって　もっているのです。じぶんだけのすてきなぼうしを。

本の分けかた・ならべかた

■分けかた　絵本やものがたり、じてんやずかんなど、本のしゅるいによってたなが分かれています。

■ならべかた　ふつう、本のだいいめいや、さくしゃの名前のあいうえおじゅんにならべられています。

【新出漢字】

分　わかる　こたえがわかる　ぶん　半分
時　じ　時間　あいだ　その間　けん（げん）　人間
通　とおる　店の前を通る
鳥　とり　鳥がとぶ

万　まん　一万円
頭　あたま　頭にのせる
新　あたらしい　新しいぼうし
公　こう　公園　えん　公園
図　と　図書館

かん字のひろば③　（書②） 一週間の出来事

月曜日から日曜日までの出来事[できごと]を漢字と言葉を使い、文に書く。

月曜日　草とり　火曜日　かん字　文しょう　水曜日　雨　木曜日　口　耳　糸でんわ　金曜日　天気　早おき　土曜日　花火　日曜日　虫とり

夏がいっぱい（書②）

● 夏らしい言葉[ことば]を探し[さがし]便りを書く。　☆生活科

せみ　つゆ草　あさがお　えだまめ　なす　ピーマン　すいか　とうもろこし　トマト　かぶと虫　くわがた虫　ひまわり
みんな　たにかわしゅんたろう
みんな　なくのは　せみ　よびごえ　きこえる　みみ
そうっと　ちかづく　あみ　いちばん　なかよし　きみ
はやしの　むこうに　うみ　とこやに　いったね　かみ
きらきら　かがやく　なみ　まっかに　みのった　ぐみ

【新出漢字】　夏　なつ　夏休み

日本語(国語)【小2】9月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小2 9月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
おおきなあれ (読②) 詩の音読 繰り返しや呼びかけ・擬態語	語【ご】のまとまりや言葉【ことば】の響き【ひびき】に気をつけて音読する。 繰り返し【くりかえし】や呼びかけ【よびかけ】の表現【ひょうげん】。 ・擬態語
おおきなあれ さかたひろお あめの つぶつぶ ブドウに はいれ ぷるん ぷるん ちゅるん ぷるん ぷるん ちゅるん おもくなれ あまくなれ	あめの つぶつぶ リングに はいれ ぷるん ぷるん ちゅるん ぷるん ぷるん ちゅるん おもくなれ あまくなれ
大すきなもの、教えたい (話・聞⑤) 発音・敬体	●はっきりした発音【はつおん】で、敬体【けいたい】で話す。 ・相手に届く音量で話す。 ・「初め」「中」「終わり」の構成にする。
1 つたえたいことの中から、はっぴょうするものをきめよう。 大すきなことや お気に入りのもののこと 〈すきなものの よいところや、すきなわけ〉 〈すきなものについて しらべたこと〉 2 話すじゅんじょを考えて、はっぴょうのれんしゅうをしよう。 はじめ なんの話をするかを言う。 中 教えたいことを、くわしく話す。 おわり まとめのことばを言う。 ▼どのくらいの大きさの声で話すと、クラスみんなに聞こえるでしょうか。 【新出漢字】 友 とも 友だち 声 こえ 大きな声 方 かた およぎ方 ほう うしろの方	
カンジーはかせの大はつめい (伝国②) 漢字の作りや熟語	漢字【かんじ】の構成【こうせい】や熟語【じゅくご】。 【S1】 漢字を合体させる仕組みを理解し、設問に取り組む。
【新出漢字】 才 さい 天才 星 ほし 星が光る 弓 ゆみ 弓矢 矢 や 弓矢 谷 たに 谷川 当 あたる まとに当たる	

ことばあそびをしよう (仮①)
仮名を組み合わせた言葉作り

●「あいうえお」や「あかさたな」を使[つか]って、★意味[いみ]のある言葉[ことば]を作る。

あいうえお あ りが い けに う いている。 え だにのって お でかけだ。
あかさたな あ しかは、 か ながえている。 さ っき た べたのは な なんだったつけ、と。

「ことばあそびうた」 たにかわしゅんたろう
 ののはな ことこ そのこのそのそ
 はなのののはな このこのこのこ そのこのけそのこ
 はなのななにあに どここのこのこ そのこのそのおの
 なずななのはな このこのこののこ きのこもきれぬ
 なもないのばな たけのこきれぬ

どうぶつ園のじゅうい
(読⑨、書③)
時間の順序を表す言葉

●時間的[じかんてき]な順序[じゅんじょ]や事柄[ことがら]の順序[じゅんじょ]を考えながら読み取る[よみとる]。
 ・「いつもすること」と「ある日、特別にすること」を確かめる。
 ・獣医がその仕事をしたわけと、仕事の工夫を見つける。

【語彙・表現】
 わたし どうぶつ園ではたらいっている じゅうい しごと どうぶつたちが 元気にくらせるように すること びょうき
 やけがをしたときには、ちりょう ある日の わたしのしごとのこと 朝、 どうぶつ園の中を 見回る なぜかという、
 元気なときの どうぶつのようすを見ておくと、 びょうきになったとき、すぐに気づくことが できるから また、 わ
 たしの顔を見せて、なれてもらおうという大切なりゆうもあります。 声もおぼえてもらおうように しています。 見回りがおわるこ
 ろ、 しいくいんさんによばれました。 いのししのおなかに 赤ちゃんがいるかどうか、みてほしい お昼前に、 どうぶ
 つ園の中にあるびょういんにもどりました。 けがをしたにほんざるが くすりをのまないと、しいくいんさんがこまっていました。
 こなをはちみっにまぜたら、やっど、いっしょにのみこんでくれました。 お昼すぎには、 ワラビーの家に行きました。
 はぐきがはれている ワラビーのちりょう 夕方、 しいくいんさんから 電話がかかってきました。 ペンギンが、ボール
 ペンをのみこんでしまった 一日のしごとのおわりには、 きょうあったできごとや、どうぶつを見て気がついたことを、日記に
 書きます。 毎日、きろく よりよいちりょうを することができると どうぶつ園を出る前 かならずおふろに入ります。
 どうぶつの体には、人間の びょうきのもとに なるものが ついていることが あります。 どうぶつ園の外に もち出さない
 ため これで、ようやく 長い一日がおわります。
 ▼じゅういさんは、いつ、どんなしごとをしましたか。時間をあらわすことばに 気をつけて、たしかめましょう。
 ▼しごとの中で、つぎのようにかんじたものは ありましたか。
 ・はじめて知って おどろいたこと。 ・気になったこと。 ・もっと知りたいこと。

【新出漢字】	朝	あさ	毎朝	半	はん	半分
	顔	かお	顔を見せる	電	でん	電話
	毎	まい	毎日	記	き	日記
	家	いえ	家の中	外	そと	外に出る
	昼	ひる	お昼			

つなぎことば・こそあどことば

日本語(国語)【小2】10月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小2 10月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31 : 8 【S2】 19 : 8 【S3】 9 : 9 【S4】 2 : 7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
お手紙 (読⑩、書②) 音読劇	◎場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫【くふう】して音読劇【げき】をする。
【語彙・表現】 がまくん げんかんの前 かえるくんが言いました。 「どうしたんだい、がまがえるくん。きみ、かなしそうだね。」 「うん、そうなんだ。」 がまくんが言いました。 「今、一日のうちの かなしい時なんだ。つまり、お手紙を まつ時間なんだ。そうすると、いつも ぼく、とても ふしあわせな気持ちに なるんだよ。」 「そりゃ、どういうわけ。」 「だって、ぼく、お手紙 もらったこと ないんだもの。」 「いちどもかい。」 「ああ。いちども。」 「だれも、ぼくに お手紙 なんか くれたことがないんだ。毎日、ぼくのゆうびんうけは、空っぽさ。お手紙を まっているときがかなしいのは、そのためなのさ。」 ふたりとも、かなしい気分 「ぼく、もう 家へ帰りなくっちゃ、がまくん。しなくちゃいけないことが、あるんだ。」 かえるくんは、大いそぎで 家へ帰りました。 ふうとう 「がまがえるくんへ」 知り合いのかたつむりくん 「かたつむりくん。」 「おねがいでけど、このお手紙を がまくんの家へ もって行って、ゆうびんうけに 入れてきてくれないか。」 「まかせてくれよ。」 「すぐやるぜ。」 かえるくんは、がまくんの家へもどりました。 ベットで お昼ね 「がまくん。」 「きみ、おきてさ、お手紙が来るのを、もうちょっと まってみたいいいと 思うな。」 「いやだよ。」 「ぼく、もう まっているの、あきあきしたよ。」 かえるくんは、まどからゆうびんうけを見ました。 「がまくん。」 「ひょっとして、だれかが、きみに お手紙をくれるかもしれないだろう。」 「そんなこと、あるものかい。」 「ぼくに お手紙をくれる人なんて、いるとは思えないよ。」 かえるくんは、まどから のぞきました。 「でもね、がまくん。」 「きょうは、だれかが、きみに お手紙 くれるかも しれないよ。」 「ばからしいこと、言うなよ。」 「今まで、だれも、お手紙くれなかったんだぜ。きょうだって同じだろうよ。」 かえるくんは、まどから のぞきました。 「かえるくん、どうして、きみ、ずっと まどの外を 見ているの。」 「だって、今、ぼく、お手紙をまっているんだもの。」 「でも、来やしないよ。」 「きっと来るよ。」 「だって、ぼくが、きみに お手紙出したんだもの。」 「きみが。」 「お手紙に、なんて書いたの。」 「ぼくは、こう書いたんだ。『親愛なる がまがえるくん。ぼくは、きみが ぼくの親友であることを、うれしく思っています。きみの親友、かえる。』」 「ああ。」 「とても いいお手紙だ。」 げんかん ふたりとも、とても しあわせな気持ち 長いこと まっていました。 四日たって、かたつむりくんが、がまくんの家につきました。 かえるくんからのお手紙 がまくんは、とてもよろこびました。 音読げき 声と かんたんな体のうごき がまくんの家 ・「がまくん」は、「かえるくん」に何を言いましたか。 ・ふたりは、何をしましたか。 かえるくんの家 ・「かえるくん」は、家へ帰って、何をしましたか。 ・「かえるくん」は、だれに、何をたのみましたか。 がまくんの家 ・ふたりは、何を、どのように話しましたか。 ・ふたりは、何をしましたか。	
【新出漢字】 何 なに 何をするか なん 何回 帰 かえる 家へ帰る 来 くる やって来る らい 家来 親 しん 親友 おや 親子	
主語と述語 (伝国②) 主語と述語(三つの文型)	★ 主語【しゅご】と述語【じゅつご】の関係

だれ（何）が どうした（どうする、どんなだ、なんだ）

- ・がまくんが 言いました。
- ・かえるくんは、まどから のぞきました。
- ・お手紙が 来る。
- ・がまくんは、かなしそうだ。
- ・これは、お手紙だ。

【新出漢字】 語 ご 主語

かん字の読み方 (伝国②)
複数の読み方があるかん字

★ 複数[ふくすう]の読み方がある漢字[かんじ]

- ・「上」と「下」の読みを確かめ、読み方によって送り仮名が変わることを知る。

わたしのおにいさんは、九月九日の日曜日に、九さいになりました。

「九」と「日」 それぞれ、どんな読み方をしましたか。

▼ たくさん読み方があるかん字

上 じょう うえ うわ かみ あげる ・あがる のぼる

- ・屋上から、東京タワーが見える。
- ・たなの上に、金魚ばちをおく。
- ・上ばきをぬぐ。
- ・川上で、つりをする。
- ・古い本をつみ上げる。
- ・お寺のかいだんを上る。

下 か け した しも さげる ・さがる くだる ・くだす ・くださる おろす ・おりる

- ・ろう下に西日がさす。
- ・夜が明けてから、下山する。
- ・木の下で立ち止まる。
- ・川下は、ながれがおそい。
- ・頭を下げる。
- ・さか道を下ると、工場がある。

・にもつを下ろす。

▼ おくりがなに気をつけて 談みましょう。

- ・草が生える。
- ・犬が生まれる。
- ・手紙を出す。
- ・家の外に出る。
- ・船が、みなどに入る。
- ・お米をかごに入れる。

【新出漢字】

東 とう 東京
京 きょう 東京
古 ふるい 古い本
寺 てら お寺
西 にし 西日
工 こう 工場

船 ふね 船
夜 よ 夜が明ける よる 昼と夜
明 あける 夜が明ける
止 とまる 立ち止まる
道 みち さか道
米 こめ お米

秋がいっぱい (書②)

● 秋の様子[ようす]を表す[あらわす]言葉[ことば] ☆生活科

【語彙・表現】

ききょう 赤とんぼ かき コスモス こおろぎ すず虫 ひよどり すすき いちょう ねこじゃらし
もみじ

まっかな秋

まっかだな まっかだな つたの葉っぱが まっかだな もみじの葉っぱも まっかだな 沈む夕日に 照らされて
まっかなほったの きみとぼく まっかな秋に かこまれている

【新出漢字】 秋 あき 秋まつり

日本語(国語)【小2】 11月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小2 11月 ユニット・指導内容・ステップ			
【ユニット モジュール配分比率】		ステップ：現学年	【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容		
お話のさくしゃになろう(書⑩) 「初め」「中」「終わり」 ・じんぶつの名前 ・どんなじんぶつか。 ・「中」で、だれと出会い、どんなできごと（じけん）がおこるか。 【新出漢字】 池 いけ 池 食 たべる ごはんを食べる くう めしを食う 野 の 野原 原 はら 野原 げん 草原	◎絵を見て想像したことから書くことを決め、「初め」「中」「終わり」のまとまりのある短い物語を書くことができる。		
かたかなで書くことば（書②） 片仮名で書く語 【語彙・表現】 オルガン けんばんハーモニカ オーケストラ コンサート ピアノ カスタネット トランペット ギター バイオリン マラカス タンブリン トライアングル ドラム シンバル かたかなで書くのは、つぎのようなことばです。 どうぶつのなき声 ・犬が、ワンワンはえています。 ・ニャーオーコケコッコー いろいろなものの音 ・雨戸をカラカラとしめました。 ・風が、ビュービューとふいています。 ・かねが、ゴーンとなりました。 【新出漢字】 戸 と（ど） 雨戸 国 こく 外国 くに 国 首 くび 首にかける 麦 むぎ 小麦 地 ち 土地 市 いち 市場	片仮名[かたかな]を使[つか]って「何が」「どうする」が整[ととの]った文を書く。 ◎片仮名で書く言葉の種類を知る。 外国から来たことば ・メダルを首にかけてもらいました。 ・パンは、小麦からつくられます。 外国の、国の名前や 土地の名前、人の名前 ・インドの市場に行きました。 ・エジソンは、はつめい家です。		
しかけカードの作り方（読⑥） 順序性を示す表現 【語彙・表現】 切りこみ 山 まず つぎに それから こんどは さいごに	説明[せつめい]の構成[こうせい] ○言葉には、意味による語句のまとまりがある。		

〈ざいりょうとどうぐ〉 ・色画用紙 二まい（大・小 一まいずつ） ・のり ・はさみ ・ものさし 【新出漢字】 作 つくる 作り方 さく 図画工作 用 よう 画用紙 引 ひく 引っぱる 後 あと この後 うしろ 後ろ ご 午後 画 が 画用紙 かく 計画 台 だい 台の上	
おもちゃの作り方 （書⑥） 言葉のまとまり	◎説明の順番を考え、言葉のまとまりに気をつけながら文章 【ぶんしょう】 を書く。
1 セつめいするおもちゃをきめよう。 2 分かりやすいセつめいのしかたを考えよう。 3 セつめいする文しょうを書こう。 【新出漢字】 活 かつ 生活科 組 くむ 組み立て 科 か 生活科	
あったらしいな、こんなもの （話・聞⑭） ていねいな言いかた 正しいことばづかい	●相手 【あいて】 や場に応じ 【おうじ】 、話す事柄 【ことがら】 を順序 【じゅんじょ】 立てて、▲丁寧 【ていねい】 な言葉 【ことば】 と普通 【ふつう】 の言葉 【ことば】 との違い 【ちがひ】 に気をつけて話す。 ・声の大きさ、視線の動かし方、話す速さについて気をつける。
1 あったらしいなと 思うものを、絵にかこう。 2 あったらしいなと思うものを、くわしく考えよう。 〈あったらしいなと 思うわけ〉 〈できること（はたらき）〉 〈形や色、大きさなど〉 3 話すじゅんじょを考えて、はっぴょうのれんしゅうをしよう。 はっぴょうの組み立て はじめ ●なんの話をするかを 言う。 名前があれば、名前を言う。 中 ●考えたきっかけやわけ ●考えたもののセつめい ・どんなことができるか、何につかえるか。（はたらき） ・形や色、大きさなど、見たりさわったりして、分かること。 おわり ●聞く人が、これでおわりだと分かるように言う。 □はっぴょう会をひらこう。 教室にいるみんなに 聞こえるように、はっぴょうしましょう。 ・声の大きさはどうか。 ・どこを見て話すか。 ・どれぐらいのはやさで話すか。 【新出漢字】 羽 はね とんぼの羽 室 しつ 教室 雲 くも 雲の上	

日本語(国語)【小2】12月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小2 12月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
にたいみのことば、はんたいのいみのことば (伝国②) 類義語・反対語	◎類義語や反対語に興味をもち、言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気づくことができる。 【S1】「なかまのことばさがし」と「はんたいのことばさがし」をする。 【S2】 P52－類義語 P53－反対語
にたいみのことば 大きな声で話す。 大きな声で言う。 「話す」も「言う」も、声に出してことばでつたえることを あらわします。これらは、にたいみのことばです。 1 にたいみのことばを考えましょう。 ・どうろをわたる。 ・手紙をうけとる。 ・うつくしい星空をながめる。 はんたいのいみのことば 教室に入る。 教室を出る。 「入る」と「出る」は、はんたいのいみを あらわすことばです。 かぶる⇄ぬぐ きる⇄ぬぐ はく⇄ぬぐ はんたいのいみのことばを考えましょう。 ・上 ・少ない ・立つ 【新出漢字】 少 すくない 数が少ない しょう 少年 すこし 少しずつ	
わたしはおねえさん (読⑩) あらすじ	◎文章の中の大事な文や言葉を書き抜き、あらすじをまとめる。 ◎登場人物の行動を捉えて想像を広げながら読む。
【語彙・表現】 歌を作るのがすきな すみれちゃん 歌を作りました わたしはおねえさん やさしいおねえさん 元気なおねえさん ちっちゃなかりんのおねえさん 一年生の子のおねえさん すごいでしょ 「おねえさんつて、ちょっぴりえらくて やさしくて、がんばるもの 二年生になってしあわせ。」 けさ 十月の日曜日の、気もちよく晴れた朝 この歌を歌うと、 もっとぴかぴかとかがやくように 自分から思ったときは、すごくいい気もち ときどき風がふいて、コスモスの花が、いっせいにゆれます。そのようすは、コスモスが みんなで歌を歌っているようです。 コスモスさん コスモスさんも歌ってる ゆらゆらゆらゆら歌ってる お日さまがうれしいって歌ってる お水がほしいって歌ってる 「そうだ、コスモスにお水をやらなくちゃ。」 その間 すみれちゃんのへや 出しっぱなしのすみれちゃんのノートに、二さいになった妹のかりんちゃんが、えんぴつで、何かをかきはじめたのです。 半分ぐらい、なきそうでした。 もう半分は、お	

こりそうでした。かりんちゃんがかいたぐちゃぐちゃのもの「お花。」まどの外すみれちゃんは、もういちど、ノートを見ました。じっと。ずっと。「あはは。」すみれちゃんはわらいました。ぐちゃぐちゃの絵が、かわいく見えてきたけしゴムを出して、かりんちゃんがかいた絵をけそうとしました。でもけすのをやめて、すみれちゃんは、つぎのページをひらきました。

- じんぶつがしたことやできごとを中心に、お話をみじかくまとめたものを、あらすじといいます。
- ▼お話のじゅんに、くわしく読んで、「わたしはおねえさん」のあらすじをまとめましょう。
- (1)「すみれちゃん」は、どんな女の子ですか。(2)だれが、どんなことをしましたか。
- ▼「すみれちゃん」が、つぎのようにしたのは、なぜだと思いますか。
- ・それで、じっと、ノートを見ていました。(61ページ8行目)
 - ・すみれちゃんはわらいました。(64ページ2行目)
 - ・けしかけて、でもけすのをやめて、すみれちゃんは、つぎのページをひらきました。(65ページ8行目)
- ▼「すみれちゃん」がしたことや言ったことの中で、いちばん心にのこったのはどこですか。ノートに書きぬきましょう。
- (1)心にのこった理由を書きましょう。(2)自分だったらどうするかを考えてみましょう。

【新出漢字】

自じ自分
歌うた歌を歌う
心こころ心の中

しん中心

妹いもうと妹と姉
答こたえるといに答える
理り理由

かん字の広場④(書②)
数を表す言葉

★数を表す[あらわす]言葉[ことば]

◎1年生に配当されている漢字を文の中で正しく使う。

【語彙・表現】

七十円のだいこんを一本買いました。百円玉を出すと、おつりはいくらでしょうか。
六百円九はち四たば千円さつ五ひき一本七十円百円玉八人三びき犬二ひき

冬の伝統文化にかかわる言葉

●冬(年末[ねんまつ]年始[ねんし])の伝統[でんとう]文化[ぶんか]にかかわる言葉

【語彙・表現】

みのむしせんりょうさざんかつばきひいらぎはくちょうゆずすいせんうめの花まがも
ゆき
ゆきやこんこあられやこんこふってはふってはずんずんつもるやまものほらも
わたぼうしかぶりかれきのこらずはながさく

【新出漢字】冬ふゆ冬休み

かん字の読み方
かん字の画数
はんたいのいみをあらわすかん字
おくりがながつくかん字

日本語(国語)【小2】1月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小2 1月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
てのひらを太陽に (読②) 詩の音読	●語のまとまりや言葉[ことば]の響き[ひびき]に気をつけて詩[し]を音読する。
ぼくらは みんな生きている 生きているから 歌うんだ ぼくらは みんな生きている 生きているから かなしいんだ てのひらを太陽に すかしてみれば まっかに流れる ぼくの血しお みみずだって おけらだって あめんぼうだって みんなみんな 生きているんだ ともだちなんだ	
ようすをあらわすことば (書②、伝国②) 見たこと、かんじたこと (書⑤) 様子を表す言葉	★ 様子[ようす]を表す[あらわす]言葉[ことば] ★ 触[さわ]った感じ[かんじ]やにおい、音や味[あじ]を表す[あらわす]言葉[ことば]を考える。 【S1】 雨の様子にぴったりと合う言葉 【S2】 オノマトペや副詞(形容詞)、比喻表現
【語彙・表現】 ようすをあらわすことば 「—ように」「—みたいに」 たとえ いきおいよくふるようす ・雨が、ざんざんふっている。 ・雨が、たきのようにふっている。 見たこと、かんじたこと ペンペン草 さかた ひろお ペンペン草を ふってみた ペンペンペンって 鳴るかと思った	・雨が、はげしくふっている。 ・雨が、バケツをひっくりかえしたみたいにふっている。

ペンペン草を
ふってみた
耳たぶがすこし
くすぐったかった

もやし まど・みちお
うえを
したへの
おおさわぎ

このように、見たことやかんじたことを、みじかく書きあらわしたものを、詩といいます。

【新出漢字】

鳴 なる 音が鳴る なく 鳴き声

三まいのおふだ(読①)
昔話

「～が、～するところです。」という話型[けい]

おにごっこ (読⑩)
示された型に沿って文章を書く

学校や公園、家などでいつもしている遊び[あそび]を文に書く。
■事物の仕組みなどについて説明した文章を読む。

【語彙・表現】

おにごっこ どうぐがなくても、みんなでできるあそび あそび方の一つ にげてはいけないところをきめるもの にげる人をつかまえやすくなります。 また、 にげる人だけが入れるところを作ったり、つかまらないときをきめたりするあそび方 にげる人がかんたんにはつかまらないようになります。 ほかに、 「おにが交代せずに、つかまった人が、みんなおにになっておいかけるといふあそび方 おこは、にげる人をつかまえやすくなります。 ところが、 おにごっこがすぐにおわってしまいます。 「おにになった人は、みんな手をつないでおいかけるといふきまりをつけ足すだけで、おにごっこがすぐにおわらずに、長くあそびつづけることができます。 このように、 さまざまなあそび方 おにになった人も、にげる人も、みんなが楽しめるように、くふうされてきた だれもが「楽しかったと思えるようなおにごっこ

▼「おにごっこ」に出てくるあそび方の中で、知っているあそび方や、したことがあるあそび方はありますか。

▼「おにごっこ」には、どんなあそび方が出てきましたか。また、そのあそび方には、どんなおもしろさがあるでしょう。

▼つぎのように考えたところがありますか。どこを読んで、そう考えましたか。

・そうだったんだ。 ・本当にそうだ。 ・そうかもしれない。 ・そうかなあ。

▼おにごっこやほかのあそびで、あそび方をくふうしたことがありますか。それはどんなくふうですか。

ことば

▼「おにごっこ」には、人のうごきをあらわすことばが たくさん出てきます。

〈れい〉 ・にげる ・行く

【新出漢字】

走 はしる 走りだす
交 こう 交代

楽 たのしい 楽しいあそび
がく 音楽

日本語(国語)【小2】 2月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小2 2月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
かん字の広場⑤ (書②) 主語と述語のつながり 正しい書きじゅん	●主語[しゅご]と述語[じゅつご]の整[ととの]った文を書く。 ◎1年生に配当されている漢字を文の中で正しく使う。
主語と述語のつながりー女の子が、公園の中を、かけ足で走っています。 男の子 女の子 名人 竹うま 青空 上 下 右 左 出る かけ足 入る 休む 力もち	
みんなできめよう (話・聞⑧) 考えたことを伝える言葉	話し合いのしかた。話題に沿って話し合う。 ◎伝えたいところに気をつけて互いの話を聞き合い、話題に沿って話し合う。
1 話し合いのしかたをたしかめよう。 ●はじめに ・話し合いをすすめる人をきめる。 ・ぜんいんで、話し合うことをたしかめる。 ・話し合うことをたしかめる ●考えを言うとき、考えを聞くとき ・考えたことをすすんで話す。 ・聞くときは、話している人を見る。 ・さいごまで聞いてから話す。〈考えと理由〉 ●友だちと考えを出し合うとき ・分からないことや、くわしくききたいことをしつもんする。 ・きかれたことに答える。 ・いい考えだと思ったり、同じ考えだったりしたら、つたえる。 〈しつもん〉〈しつもんの答え〉〈同じ考えのとき〉 ●さいごに ・話し合いをすすめる人は、さいごに、話し合ったことをまとめる。 ・ぜんいんで、きまったことをたしかめる。	
【新出漢字】 計 けい 計画	
なかまのことばとかん字 (国②) にたいみのことば	★ 仲間[なかま]の言葉[ことば]や漢字[かんじ]を知り、文や文章[ぶんしょう]の中で正しく使う[つかう]。なかま分けクイズ。
【語彙・表現】 家の人 親ー父 母 子ーわたし 兄 姉 弟 妹 お金 一円 十円 百円 千円 一万円 一日 朝 午 前 昼 正午 夜 午後 教科 国語 算数 生活 音楽 図工 体育 色 赤 青 黄 白 黒 茶 天気 晴れ 雨 くも り 雪 ▼どうぶつの名前や、うごきをあらわすことばなど、なかまのことばをあつめましょう。	
【新出漢字】 父 ちち 父と母 弟 おとうと 兄と弟 だい 兄弟 母 はは 父と母 午 ご 午前 兄 あに 兄と弟 きょう 兄弟 黒 くろ 黒い石 こく 黒板	

姉 あね 姉と妹
算 さん 算数

茶 ちゃ 茶色

スーホの白い馬 (読⑫)
場面の様子 あらすじ
複合語

あらすじをまとめる。 複合語
◎場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。

【語彙・表現】 中国の北の方 モンゴル 広い草原 そこにすむ人たち ひつじや牛や馬などをかって、くらしていました。馬頭琴というがっき 馬の頭の形 むかし モンゴルの草原 スーホ まずしいひつじかいの少年 年とったおばあさんとふたりきり おとなにまけないくらい、よくはたらきました とても歌がうまく うつくしい歌声は、草原をこえ、遠くまでひびいていく ある日のこと 日は、もう遠い山のむこうにしずみ ぐんぐんくらくなってくる スーホが帰ってきました。スーホが、何か白いものをだきかかえて、帰ってきました。生まれたばかりの、小さな白い馬 日は、一日一日とすぎていきました。子馬は、すくすくとそだちました。あるばんのこと けたたましい馬の鳴き声と、ひつじのさわぎ スーホは、はねおきると外にとび出し 大きなおおかみ わかい白馬が、おおかみの前に立ちふさがって、ひっしにふせいで 白馬は、体中あせびっしょり 月日は、とぶようにすぎていきました。ある年の春、町でけい馬の大会 一等になったものは、とのさまのむすめとけっこんさせる 馬は、とぶようにかけます。とのさま 「白い馬が一等だぞ。白い馬ののり手をつれてまいれ。」 まずしいみなりのひつじかい むすめのむこにするというやくそくなどは、知らんぷり 「おまえには、ぎんかを三まいくれてやる。その白い馬をここにおいて、さっさと帰れ。」 スーホは、かっとなって、むちゅうで言いかえしました。家来たちが、いっせいに、スーホにとびかかりました。気をうしなつて とのさまは、白馬をとり上げると、家来たちを引きつれて、大いばりで帰っていきました。スーホの体は、きずやあざだらけ 何日かたつと、きずもやっとなおってきました。それでも、白馬をとられたかなしみは、どうしてもきえません。すばらしい馬を手に入れたとのさまは、まったくいい気もち 白馬をみんなに見せびらかしたくてたまりません。ある日のこと、おきやくをたくさんよんで、さかもり そのさいちゅう とのさまは、白馬にまたがりました。そのとき さわぎ立てるみんなの間をぬけて、風のようにかけだしました。とのさま 大声でどなりちりました。「早く、あいつをつかまえろ。つかまらないなら、弓でいころしてしまえ。」 家来たちは、弓を引きしぼり、いっせいに矢をはなちました。そのばんのこと スーホがねようとしていたとき ふいに、外の方で音がしました。カタカタ、カタカタ おばあさん 「白馬だよ。うちの白馬だよ。」 スーホは、はを食いしぼりながら、白馬にささっている矢をぬきました。きず口からは、血がふき出しました。白馬は、弱りはて いきは、だんだん細くなり、目の光もきえていきました。つぎの日、白馬は、しんでしまいました。かなしさとかやしき スーホは、いくばんもねむれませんでした。やっとなあるばん、とろとろとねむりこんだとき、白馬のゆめを見ました。「そんなにかなしまないでください。それより、わたしのほねやかかわや、すじや毛をつかって、がっきを作ってください。そうすれば、わたしは、いつまでもあなたのそばにいられますから。」 ゆめで、白馬が教えてくれたとおりに、ほねやかかわや、すじや毛を、むちゅうで組み立てていきました。これが馬頭琴 やがて、スーホの作り出した馬頭琴は、広いモンゴルの草原中に広まりました。そして、ひつじかいたちは、夕方になると、よりあつまって、そのうつくしい音に耳をすまし、一日のつかれをわすれるのでした。

ことば ▼くらべてみましょう。どのようにちがいますか。

・はねおきる－おきる ・引きつれる－つれる ・ころげおちる－おちる ・ふりはなす－はなす

【新出漢字】

馬 うま 白い馬 ば けい馬
北 きた 北の方
牛 うし 牛や馬
強 つよい 強い風

遠 とおい 遠くまでひびく えん 遠足
売 うる 売りに来る
弱 よわる 体が弱る

日本語(国語)【小2】3月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小2 3月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
ことばを楽しもう (伝国①) 回文	★ 回文を音読して、回文のしくみを知り、回文を作る。 【S1】 教科書の回文を音読して、どんな決まりがあるかを考える。 【S2】 回文の仕組みを知り、簡単な回文作りを楽しむ。
上から読んだり、下から読んだりしましょう。 わるいにわとりとわにいろわ ぞうくんぱんくうぞ きんのはとはのんき このらいおんおいらのこ たったいまがながまいたった	
楽しかったよ、二年生 (書⑭) 文章の推敲 「初め」「中」「終わり」 長音・拗音・促音・撥音	「初め・中・終わり」の構成[こうせい]で、ひとまとまりの文章[ぶんしょう]を書く。 ○長音・拗音・促音・撥音などの表記や助詞や句読点の使い方。
【語彙・表現】 1 一年をふりかえって、書くことをきめよう。 〈思い出すこと〉 ・あなたがしたこと。 ・あなたが思ったこと。 ・友だちがしたこと、言ったこと。 ・いちばんがんばったことや、うれしかったこと、おもしろかったこと。 など 2 組み立てを考えて、文しょうを書こう。 書き出したことをもとに、かんたんな組み立て はじめ 心にはのこったことは何かを書く。 中 そのときにしたことや、思ったことなどを書く。 おわり いちばん書きのこしておきたいことを書く。	

- 3 書いた文しょうを読みかえそう。
- ・かん字やかたかなは、正しくつかえていますか。
 - ・「は、を、へ」や、小さく書く字（や、ゆ、よ、つ）は、正しくつかえていますか。
 - ・丸（。）、点（.）、かぎ（「」）は、正しくつかえていますか。
- 4 書いた文しょうを読み合おう。

【新出漢字】

里 さと 里いも
角 かく 三角形

番 ばん 当番
直 なおす 書き直す

ことばのいみ
はんたいのいみのことば

ことばのたからばこ

明るい
ゆうきのある
元気
親切
やさしい
しょうじき
しっかり
がまん強い
いじわる
そそっかしい
ずるい

きれい
りっぱ
おかしい
めずらしい
くわしい
こまかい
人気のある
目立つ
べんり
かんたん
むずかしい
よくある

新しい
古い
－みたい
－ににた
－と同じ
－にそっくり
－とちがう
－くらいの

おもしろい
楽しい
うれしい
よろこぶ
気持ちがいい
あんしん
へいき
すき
おどろく
かんしん
うらやましい
わすれられない
気持ちが変わる
しんばい
こわい
きらい
つまらない
くるしい
さびしい
かなしい
こまる
くやしい
ざんねん
おそろしい

「たいせつ」のまとめ

『話す・聞く』

だいじなことをおとさずに、話したり聞いたりする →二年上

・だいじなことはなにかをかんがえて、話したり聞いたりする。 など

はっぴょうするときには	→二年上
・話すことのじゅんじょを考える。	
・みんなに聞こえる声で話す。 など	
分かりやすくはっぴょうする	→51ページ
・「はじめ」「中」「おわり」のまとまりで、話すじゅんじょを考える。 など	
みんなで話し合ってきめる	→95ページ
・話し合いをすすめる人をきめる。	
・友だちの話を、さいごまで聞いてから話す。 など	
『書く』	
かんさつしたことを書く	→二年上
・見たり、さわったりして、ていねいにかんさつし、くわしく書く。	
くみ立てを考えて書く	→二年上
・「はじめ」「中」「おわり」のくみ立てで書く。	
お話を書くとき	→33ページ
・「はじめ」「中」「おわり」のまとまりに気をつけて書く。 など	
書いたものを読みかえす	→124ページ
・声に出して読んでみると、まちがいや、読みにくいところを見つけることができる。 など	
『読む』	
音読をする	→二年上
・じんぶつのしたことやようすをかんがえながら、音読する。	
せつめいしている文しょうを読む	→二年上
・じゅんじょやわけに気をつけて読む。	
お話のかんそうを書くとき	→二年上
・じんぶつのしたことや言ったことに気をつけて読む。 など	
お話を、みんなでたのしむ	→二年上
・みんなでたのしく読めそうなお話をえらぶ。 など	
じゅんじょに気をつけて読む	→二年上
・時間をあらわすことばに気をつけて読む。 など	
音読げきをするとき	→20ページ
・じんぶつの言ったことやしたことをたしかめ、声の出し方などをくふうする。	
分かりやすいせつめいのしかた	→41ページ
・まとまりごとにくぎる。	
・文しょうに合う絵やしゃしんをつかう。 など	
じんぶつと自分をくらべて読む	→68ページ
・自分だったらどうするかを考えながら読む。 など	
自分の知っていることと文しょうをつなげて読む	→90ページ
・書かれていることについて、自分の知っていることやしたことはないか、思い出す。 など	
そうぞうを広げて読む	→115ページ
・じんぶつが、どうしてそのことをしたり言ったりしたかを考えながら読む。	